

千代田中地区の小学校利活用問題 地域の声聞き方針決定を



かすみがうら市議会議員みやじま謙活動報告

つばさ通信

第29号

志筑小は千代田公民館として活用すべき

1月25～28日にかけて、千代田中学校区の閉校小学校の利活用に関する説明会が開催されました。しかし、4月から完全閉鎖や民間への売却を優先するスケジュールに対して、「地域の声を聞くのが先ではないか」などの意見が相次いで出され、説明会は連日紛糾する事態となりました。

4月から使えなくなる？

今年4月に、千代田義務教育学校が開校します。千代田中学校区の4小学校と千代田中学校が統合され、施設一体型の小中一貫教育が開始されるのです。それにもなつて、閉校となる4小学校がどうなるのか、地域住民にとっての大きな関心事となっています。説明会は千代田公民

館で開催され、各小学校ごとに、これまでの経緯と今後の方向性が説明されました。いずれも平日の夜7時からスタートで、参加者も10名前後でした。担当職員から、民間企業への廃校ニーズ調査を先行して行ったこと、4月以降に公募を開始すること、4月から施設が完全閉鎖されること、避難所としての使用もしないこと（後日、当面の間は避難所として使いつけると表明）などが報告されると、参加住民から疑問の声が相次いで出され、連日紛糾する事態となりました。

住民の意見を聞いて

閉校小学校の利活用に関しては、上佐谷小

参加者からは、「説明会をなぜ地元小学校で行わないのか」「平日夜では、多くの住民が参加できない」「民間への意向調査をする前に住民の意見を聞くべきではないか」「避難所として使えなくなれば、どこへ避難すればいいのか」「体育館は継続して使わせて欲しい」などをはじめ、多くの意見が出されました。志筑小は千代田公民館に小学校は様々な機能を担っています。その第一が「教育機能」で、今回は4小学校を統合して最適な教育を施すことになったわけですが、しかしその他「地域コミュニティ機能」「避



築年数も新しい志筑小学校

難所機能」「投票所機能」「スポーツ振興機能」なども担っており、これらを維持・発展させることも市の大切な仕事です。少なくとも旧小学校区にひとつは避難所を兼ねた交流拠点が必要だと私は思います。また、施設が新しい志筑小は、千代田公民館として活用を検討すべきではないでしょうか。旧志士庫小学校の利活用を巡って住民の要望署名が市に提出されたことは本紙でもお伝えしましたが、地域コミュニティと避難所の問題は、全市的な課題です。市は地域住民として、かりと思いを共有して、納得のいく方向性を打ち出していくべきだと思います。

乗合タクシー値下げ・拡充
常磐線横断利用、協同病院乗り入れで利便性向上

旧小学校区ごとに交流拠点・避難所整備
歩いて行ける拠点整備で、安心して暮らせるまちへ

生活道路積極整備
危ない・狭い・不便解消、農道拡幅で安全・便利に

30人学級でこまやか教育
18歳以下医療費無料、通学自転車助成で安心子育て

複合交流拠点は市街地の中央に
愛される交流拠点へ、市民と一から計画練り直し

土浦市との合併協議スタート!
めざせ活力ある18万人都市、住民投票で最終決定



かすみがうら市の
新しい未来へ

みやじま謙 公式HP

みやじま謙・実績報告

市民の声が活動の源泉です！

市議会議員として2期8年。皆様に支えていただきながら、様々な活動を行ってきました。今回はその一部ではありますが、実績報告として掲載させていただきます。

私の活動の源泉は、市民の皆さんからいただいた「声」です。

市政のこと、地域のこと、生活のこと、家族のこと、将来のこと・・・みなさんとの交流の中から、政策立案のヒントをいただき、その実現のために走り続けました。また、こうした課題を解決する中で、私自身も成長させていただいたと実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。



議会・政策

請願サポート



議会への請願は市民の大切な権利です。地域にとっての重大な問題を解決するためには、特に有効な手段です。議会で採択されると、市はその意向を無視するわけにはいきません。

一般質問



議会在籍期間中のすべての定例議会で一般質問を行いました。70以上にのぼる質問では、市民の要望を一般化・普遍化して、多くの市民にプラスになるような提言を心がけています。また、一問一答方式の導入を議会に提案し、これまでの一括方式との選択制実現に寄与しました。

乗合タクシー存続



市が乗合タクシーを廃止する方針を明らかにしたことを受け、市民の皆さん、同僚議員とともに存続運動を展開し、存続を勝ち取りました。

国道改良（戸崎原カーブ）



国道354号の戸崎原カーブ。死亡事故が多発する危険地帯です。県への働きかけを行い、改良工事が決定しました。もうすぐ完成です！

みやじま謙のまちづくり三か条

1. 住むひとに優しいこと

市民目線の生活環境になっているか、年齢を重ねても住み続けられるか、困ったときに助けてもらえるか、心温まる交流が持てるか。「優しさ」という定規でまちを見直すことが大切です。

2. 活力にあふれていること

活力とはヒト・モノ・カネの流れです。ヒトの交流に欠かせない公共交通、道路整備。モノ・カネの流れを創る地産地消。国・県との連携による資本導入・職場創生。流れは活力、流れは命です。

3. 未来志向であること

明日への希望は、ひとも社会も成長に尽きます。しかし大切なことは規模ではなく質に着目することです。子育ての質、教育の質、行政の質、地域経済の質。質の良さは未来への強さです。

情報発信

広報紙「つばさ通信」



1期目当選から、すべての定例会の後に広報紙として発行しています。今号で29号となりました。

つながるハガキ



皆様からのご意見やご要望、困りごとなどの情報をお寄せいただいています。私の政策立案の出発点です。

SNS 動画配信



ホームページ、Facebook、Twitter、Instagram、Youtubeなどで、どんどん情報発信しています。

ボランティア活動

青少年健全育成



ライオンズクラブのメンバーとして、様々な奉仕活動に参加しています。写真は小学校での薬物乱用防止教室の様子です。

フードバンク



誰でもできる「食の助け合い運動」フードバンクのきずなBOXを市内2箇所に設置していただきました。

災害復旧



常総市や水戸市の水害時に、泥のかき出しなどのボランティアに参加しました。災害時の助け合い、本当に大切です。

防犯灯整備



街路灯が無く、暗く危険な志戸崎バイパスに、防犯灯設置の働きかけを行いました。本来であれば県の仕事ですが、市が積極的に取り組んでくれました。

市民要望

安全対策



スーパーセイミヤ駐車場入口への、反対車線からの危険な進入を防止するため、県にお願いして安全ポールを設置していただきました。

カーブミラー設置



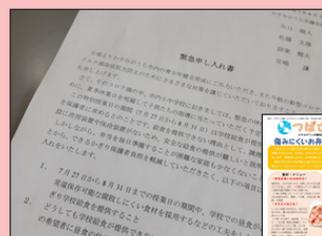
見通しの悪いカーブやT字路などへのミラー要望が多数寄せられました。危険度の高いところから設置をお願いしています。

水路整備



山からの水流によって崩落しかかっている水路の補修整備を働きかけました。

子育て支援（仕出し弁当申し入れ）



コロナ禍で夏休み登校となった際、給食が提供されない事態になり、希望すれば仕出し弁当を注文できるよう教育委員会に要望し、実現しました。また、お弁当を作るご家庭向けに、傷まないお弁当の作り方のチラシを製作し、配布しました。

霞ヶ浦地区が4月から「過疎化地域」に指定 「住み続けられるまち」へ、積極行政に転換を

やはり、そうか・・・

総務省は1月18日、過疎法で指定する過疎地域に、全国27都道府県65市町村を追加指定すると決めました。その中に、かすみがうらの旧霞ヶ浦町エリアも含まれており、地域に落胆の声が広がりました。

過疎地域に指定される条件には、人口の減少度合いや財政力などがあり、かすみがうら市全体では該当しないものの、合併前の旧町単位で旧霞ヶ浦町エリアが要件を満たすことになったとのこと。

TOPICS

いくらつぎ込むのか？第2常陸野公園

昭和54年に整備された第2常陸野公園。その借地部分約2万7000㎡の土地購入代金1900万円が、新年度予算に盛り込まれました。実はこの公園、4年前に廃止が決定されていたといえます。なぜ方針転換

空き家の増加や後継者不足の実態を日々目にしていく住民としては、「やはり、そうか」との思いがあるものの、国から「過疎地域」と名指しされるに至り、改めてその深刻さに気づかされた状況です。

積極行政転換への好機

不名誉な「過疎地域指定」ではありませんが、一方で、国や県からの財政支援が受けられるなどのメリットもあります。返済額の7割を国が肩代わりしてくれる過疎対策事業債や、市の下水道を県の事業として行ってもらえる



過疎化地域指定を報じる茨城新聞

メニュー、地域内事業所の税制優遇措置などもあります。今回の指定を「住み続けられるまち」へ生まれ変わる好機と捉え、公共交通の充実、下水道整備、企業誘致、移住・定住促進に向けた積極行政への転換を図るべきだと考えます。力を合わせて、前進あるのみです！

かすみがうら市転入超過も 若者世代の流出進む

昨年1年間の茨城県への転入が2029人超過となったことが、総務省統計局の発表で明らかになりました。県内ではつくば市4643人を筆頭に14市町村が転入超過となり、かすみがうら市も34人超過と、久々の朗報との見方が広がりました。

報道によれば、コロナ禍によるテレワークの普及で、東京一極集中が是正されたことが一因とされていますが、かすみがうら市は、少し事情が違っています。

かすみがうら市の転入状況を年代別にみると、0～14歳マイナズ20名、15～64歳マイナズ22名、65歳以上プラス76名となっており、働き盛りの現役世代と子どもが減って、高齢化が進行した形なのです。

若者世代の流出をいかに防ぐか、喫緊の課題です。

明日への思い

3月議会に、新年度の予算案が上程されました。一般会計は195億6500万円。特別会計と合わせると283億8220万円となり、過去最大の規模です。役所では、このお金を使って様々な事業を行うわけですが、その出どころは私たちの税金です。

さて、税金は私たち市民にとつて「犠牲」でしょうか、「コスト（原資）」でしょうか。ふたつの違いは、払う人に恩恵がなければ「犠牲」で、恩恵があれば「コスト」と言えます。

何がこの違いをもたらすのか。それは、税金の使い方、つまり市民が得をする施策を行っているかどうかにかかってくる。

多くの市民が税金を犠牲と感じれば悪政で、「払った甲斐があった」と感じれば善政です。私たちが目指すべきは、当然後者ですね。

た後に買取するとは、とんでもない無駄遣いと言わざるを得ません。

一部、ターゲット・バードゴルフ場として利用されているようですが、閉校小学校の校庭などで代替えることも可能です。財政難の折り、できるだけ借地は返還することを優先すべきではないでしょうか。

されたのでしょうか。これまでこの公園には、土地購入代金約5200万円と借地料約8600万円、合計で約1億3800万円がつぎ込まれていたことが、矢口龍人議員の資料請求で判明しました。長年にわたり借地料を払い続け、土地評価額の何倍もの税金を投入し



なぜ今購入？ 第2常陸野公園

かすみがうら市と土浦市
力を合わせて未来を拓こう！



めざせ
2030年合併！